

留 学 報 告 書

令和 8 年 5 月 31 日

研究科 島根大学 生物資源科学部 農林生産学科

氏 名 小此木 颯太

※ 留学先大学での成績証明書を添付すること。（島根大学に直接送付される場合はよい）

1. 留学先大学・学部 国名 アメリカ合衆国

大学名 フロリダ大学

現地到着日（ 2025年 12月 25日）

授業開始日（ 2026年 1月 12日）

現地出発日（ 2026 年 5月 1日）

授業終了日（ 2026年 4月 30日）

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

1. パスポートの取得（3月中旬頃）、2. 留学先大学への出願（4月末まで）3. 出願先からの受け入れ結果通達（5月下旬）、4. ビザの申請と予防接種（6月～7月）、5. アメリカ政府によるビザの発行規制（6月以降～）、6. 留学期間の変更（2025年fall semesterから2026年spring semester へ留学期間を変更）、7. 留学ビザ申請（9月）、8. 航空券の取得と荷造り（11月）、9. 渡航

3. 自宅から留学先大学までの交通手段（乗物の種類、乗り換え地、所要時間）

出雲空港⇒羽田空港（所要時間：1時間半）、成田空港⇒ダラスフォートワース空港（所要時間：16時間45分）、乗り換え時間：2時間40分、ダラスフォートワース空港⇒オーランド空港（所要時間：2時間35分）
オーランド空港⇒ゲインズビル（所要時間：3時間10分）※Red Coachというサイトから高速バスを予約

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

チェックイン：パスポートやDS-2019などの必要な書類を持参し、留学生を対象としたオリエンテーションに参加する。

授業登録：One UFというサイトからログイン、Holdを解除して授業登録期間に登録を行う。

寮の入寮：入寮希望日をメールで伝え、当日に部屋の鍵、メールボックスの鍵、寮内に入るための鍵の3つを受け取り、部屋の不備がないかチェックを行う。

自転車の受け取り：希望者はUFのサイトから申請することができる。受け取り日には大学から10分程度離れたガレージに伺い、説明を受けた後、期間内で自転車をレンタルすることができる。

学生証の取得：eAccountsというアプリをダウンロードし、申請をしてウォレットに追加する形で取得する。

5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

チェックイン時の注意点や必要書類の確認、授業登録の説明など。特に自身のやるべき手続きやアドバイザーへの連絡方法など重要な項目について説明を受ける。

6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

特に、スライドがない授業では、聞いた内容を覚えて復習することを心がけた。また、授業ごとにオフィスアワーが設けられているので、授業中に理解できなかった内容は先生に質問しにいくようにしていた。課題はCanvasというサイトを用い、現状の成績が課題やテスト結果によって閲覧できる仕組みになっている。テストでは、対面でのペーパー試験が多く、Canvasに記載されているテスト範囲に沿って学習を行う。一方で、プレゼンテーションなどのペーパーではない試験も多くあるので、シラバスをよく確認しておくことが重要である。

7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、後輩に勧めたいもの

私が勧める科目はFOS2001-Man's Foodである。この科目は食品科学の一つであり、食品に関する様々な知識をフィールドワークやプレゼンを通して学ぶことができた。特に質疑応答の対応が素早く、その場でわからないことを直接先生に質問できる形式が良いと思った。

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

私はMallory Hall という学内の寮に住んでいた。他の寮に比べて家賃が安く、共同のキッチンやシャワーも完備されていて、生活しやすいと感じた。しかし、学内の寮に申請すると、どの寮に配属されるかはランダムで決まるので、予めすべての寮をチェックしておく方が安心だと思う。

9. 寮・アパート生活での注意、生活の様子（行事など）、困ったこと、ルームメイトとの付き合い方、（いつから入れるのか、寮の開閉、寮が閉鎖中の滞在場所等）

私はルームメイトと2人部屋だった。起床・就寝時間の違いなど、生活リズムの異なりはあったが、お互いに思いやりをもって最後まで過ごせたと感じた。入寮は授業開始日の2日前辺りを目安に、退寮は授業終了日の2日後を目安にすると良い(退寮時は申請して許可されれば、5日ほど延長可能)。また、冷蔵庫や寝具類は必須で、冷蔵庫はレンタルをするのがおすすめである。建物に入るための鍵は紛失すると料金を請求されることがあるので、なくさないことが大事。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

（どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等）

クレジットカードを主として利用した。日本の銀行口座に口座振替をしておくのが良いと思う。現金は現地到着後に必要な分だけ引き落とし、それを使った。家賃の支払いはOne.UFのサイトから支払いを進められるが、個人的には事前に現地で口座開設を行い、手数料の低い方法で支払いを行うのがベストだと考える。

11. キャンパス案内（どんなとき、どこへ行けばよいか等）

私はよく学内にあるStudent Recreation & Fitness Center というレクリエーション施設と学外の自転車で10分の場所にあるSouthwest Recreation Centerという大きめのジムに通っていた。学生証を持っていると無料で利用できるのにおすすめだ。学内中央のReitz Unionには、学生同士が交流を行えるスペース（私は授業内外のディスカッションでよく利用した）や飲食店が多く並んでいる。また、緊急事態や困ったことがあれば焦らず、UFのHelp Deskという場所に行くと（電話対応も可）良いと思う。

—

12. 現地案内（買物、銀行、レストラン、理髪店、美容院等の様子）

日用品は寮から徒歩10分の場所にあるPubrixというスーパーマーケットを頻繁に利用した。食事は常に自炊しており、炭水化物はジャガイモやタイ米、タコスやピザの生地を使用することが多かった（寮にはオープンも完備）。レストランはハンバーガーやステーキを売りにしているお店が多く、テイクアウトにするとお手頃に食べれておすすめ。また、散髪は寮から少し離れたThe Spot Barbershopという店を利用し、サービ

スで飲み物を提供してくれたことが良かった。

13. 失敗談（どんな小さなことでも）

渡航日から帰国日にかけて10キロも太ってしまったこと。アメリカで売られている加工食品は砂糖が多く入っており、高カロリーなので、1日のカロリーを調整することが重要だと思う。特に炭酸飲料やアイスクリーム、ケーキ類などのスイーツは要注意。

14. 病気になった場合の対応について（医療費はどのようになっていたか、保険等はどのようにしたか）

私はUFの保険に加入した（基本的にUFの学生は加入対象）。病気やけがをした時の医療費や診察費の補償もUFの保険で対応できる（実際にはけがや病気等は患わなかった）。

15. お世話になった方々

ルームメイトやルームメイトのご家族、フロリダ大学で出会った友人たち。

授業でお世話になった先生。

共に活動を行ったクラブ活動のメンバー、先生。など

16. 留学先国内旅行について（場所、手段、費用、旅行社等）

春休みの1週間を使って、マイアミへ旅行に行きました。マイアミへはゲインズビルから高速バスを使って向かった。途中、乗っていたバスが燃料切れを起こし、高速道路上で停止するというトラブルが発生した。片道6時間の予定のところ10時間近く乗車した。現地ではビーチや野球観戦、友人と買い物に行ったりした。宿は友人の伝手でコテージに滞在した。費用は往復でバス代・移動費が5万円、その他費用が5万円ほどの計10万円だった。

17. 気候と服装について

気候は予想していたよりも寒暖差が激しく、1～2月は少し肌寒いと感じたが、3月～5月にかけては日本の真夏のような暑さだった。服は、下着類やシャツ、ズボン類を各3セットずつ持って行ったが、半袖のTシャツに関しては5～7枚と多めに持って行った方が良いと思う。特に寮に設置してある洗濯機や乾燥機は有料のも

のが多いので、衣類を多めに持っていくことで、回す回数を最小限にするのがベストであると考える。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの（学用品、衣服、食品、薬、運転免許証等）

食品はインスタント食品や袋麺、お土産用にせんべいなどを持っていけると良いと思う。アジアマーケットにも売っているが、味が薄く、割高な印象。衣服は半袖のTシャツを多めに、薬は風邪薬と酔い止め（長時間移動が多いため）を持っていく。免許は、国際運転免許証を取っておくと便利だと思う。学用品はUSBやタブレット端末を持っていけるのがおすすめ。

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書、旅行案内書を含めて）

Oxford Dictionary（有料の辞書）

Grammar in Use（参考書）

フロリダに関する観光本

20. ホームステイの依頼方法

長期的なホームステイは行っていないが、入寮までの期間は、Airbnbというサイトで部屋を予約し、ホストと1週間ほど共同で宿泊を行った。

21. 留学費用について

1) 旅費	(往) <u>135,000</u> 円, (復) <u>172,000</u> 円
2) 準備費用	<u>120,000</u> 円
3) 大学へ納入する費用	<u>460,000</u> 円
授業料（年間合計）	<u>260,000</u> （半期）円
保険等その他の費用	<u>200,000</u> 円
4) 住居費（光熱費等含む）	<u>560,000</u> 円
5) 衣服代, その他雑費	<u>50,000</u> 円
6) 帰国時の土産代, 郵送料等	<u>30,000</u> 円
7) 留学先国内旅行費用	<u>100,000</u> 円
8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額	<u>2,000,000</u> 円
現地通貨 <u>\$</u> 日本円換算(レート) <u>166</u> 円	

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

冷蔵庫や食器類などは現地の友人に譲り、パッキングは重さの上限を超えないように圧縮パック等を用いて詰めた。

23. 留学して得たこと（全般についての感想文）

私は留学を通して、食料や食品等、農学を対象とする専門科目の知見が広がったと感じる。私が履修していた授業科目では、課題やディスカッション、フィールドワークを経験してアメリカやその他の海外の国の食品生産に対する考え方やその方法を身をもって学ぶことができた。また、ボランティア活動を通して積極性を体得し、授業内外でプレゼンをすることで自分の意見を伝えたり、相手の意見を尊重するコミュニケーション能力が向上したと考える。特に食品科学の授業では、授業の総まとめとしてプレゼンを行い、自分の考えていることを上手に発表できるようになった。加えて、課外活動の一つとして行っていた武道を習うクラブ活動では、日本の技名はそのまま、アメリカ独自の型も追加されていたりと文化の多様性を感じた。

一方で、学外でも多くのことを学んだ。バスや電車などの交通機関の利用やチップの払い方など、日本とは違った習慣を経験することができた。中でも、問題が発生した時や尋ねられた時に、周りの人たちに声をかけたり、電話をかけたりすることも戸惑いなくできるようになった。例えば、マイアミに向かう途中でバスが急に停止してしまった時も、周りにいた乗客や運転手の方に直接事情を伺い、状況を瞬時に把握することができた。このような生活の中で、緊張や不安に縛られず、自分の意見を自信をもって相手に伝えていくという力が身についたと実感した。

全体を通して、言語の違いはあれど、多くの人と出会い、対話を重ねながら生活環境を豊かにしていくことが重要であり、そのような環境で留學生活を過ごせた経験が大きな収穫だったと考える。特に、ルームメイトと対話を繰り返し、お互いのマナーやルーティンの違いを享受できたことが、文化的な異なりをより一層尊重できるようになったことに貢献したと思う。この経験を活かして、今後関わっていく人たちへの尊重を大切にし、社会に貢献できるような人材になることを目指したいと思う。
